

日本化学会第 89 春季年会 (2009) 講演申込要項

第 89 春季年会実行委員会

会 期	平成 21 年 3 月 27 日 (金) ~ 30 日 (月)
会 場	日本大学理工学部 船橋キャンパス (千葉県船橋市習志野台)
実行委員長	大倉一郎 (東京工業大学大学院生命理工学研究科・教授)
内 容	アカデミック・プログラム (AP : 一般研究発表) (口頭・ポスター) アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP) (口頭・ポスター) 特別講演・受賞講演・特別企画・展示会・総会・表彰式・懇親会・市民公開講座・その他委員会企画ほか
重要な日程	講演申込期間 平成 20 年 11 月 18 日 ~ 12 月 2 日 予稿原稿提出期間 平成 21 年 1 月 15 日 ~ 1 月 27 日 参加予約申込期間 平成 21 年 2 月 2 日 ~ 2 月 27 日 プログラム公開日 平成 21 年 2 月 20 日 (予定) 講演予稿集発行日 平成 21 年 3 月 13 日 (予定) ※ DVD-ROM・冊子・WEB すべて
問合せ先	日本化学会 企画部 年会係 〒 101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5 TEL: 03-3292-6163 FAX: 03-3292-6318 E-mail: nenkai@chemistry.or.jp URL: http://www.csj.jp/nenkai/

標記年会の研究発表を以下のように募集いたします。講演申込要項は、毎回見直しが行われ変更されていますので、必ずご確認ください。本年会における留意点は以下のとおりです。

- ・産学連携のための企画「アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)」に環境のセッションを新設します。
- ・予稿原稿の形式が変更になります (有効スペース内に英文のキーワードとアブストラクトを入れて下さい)。
- ・プレゼンテーション時に使用する資料 (スライド) の言語は可能な限り英語で作成下さい。
- ・講演予稿集を DVD-ROM で発行いたします。

1 講演申込について

1.1 はじめに

- ・アカデミック・プログラムの講演は未発表の内容に限ります。
- ・アドバンスト・テクノロジー・プログラムは既発表のもの、特許化したもの、製品化したものも発表可とします。また知的財産戦略や特許化の関連から化合物名を公表できない場合には「化合物 A、B」として発表することも可とします。

1.2 申込期間

平成 20 年 11 月 18 日 ~ 12 月 2 日

※講演申込完了時に発行される講演申込受付番号とパスワードを使用し、申込内容の訂正、削除することができます。訂正期間は以下のとおりです。

平成 20 年 11 月 18 日 ~ 12 月 3 日 17 時

1.3 申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の講演申込フォームからお申し込み下さい。なお講演申込フォーム利用には大会コードの入力が必要です (大会コード: nenkai89)。

講演申込フォームが使用できない場合は、お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際ですと対応できかねる場合もございます。

1.4 申込完了の確認

講演申込が完了すると、講演 1 件ごとに講演申込受付番

号とパスワードを発行します。また、申込内容を申込時に入力した E-mail アドレスに通知します。申込者は講演申込受付番号が発行されていることと通知が来ていることを必ず確認して下さい。通知未着の場合には 12 月 4 日までに必ず事務局まで E-mail にてお問い合わせ下さい。期限後のお問合せには対応できませんのでご注意ください。

1.5 講演者の資格

講演申込者及び講演者 (登壇者) は、講演申込時点において日本化学会会員 (教育会員も含む) であることが必要です。未入会の方は講演申込の前に Web 上で入会申込手続きを行って下さい。連名者はこの限りではありません。また講演申込は、会員 1 人につき 1 件です。複数の講演の講演申込者であることが明らかになった場合には、訂正をしていただくこととなりますので、ご注意ください。

なお、講演者 (登壇者) 及び本年会に参加される方は、全員参加登録 (詳細は「化学と工業」1月号参照) が必要です。

アドバンスト・テクノロジー・プログラムの場合、講演申込者、講演者 (登壇者) 及び連名者は、日本化学会会員でなくとも結構です。ただし講演者 (登壇者) 及び参加者は、全員参加登録 (詳細は「化学と工業」1月号参照) が必要です。

1.6 発表形式と講演時間

アカデミック・プログラム

A 講演 10 分 (講演 7 分・討論 2 分・交代 1 分)

B 講演*¹ 20分 (講演 15分・討論 4分・交代 1分)

ポスター 45分

アドバンスト・テクノロジー・プログラム*²

C 講演 20分 (講演 15分・討論 4分・交代 1分)

D 講演 30分 (講演 25分・討論 4分・交代 1分)

ポスター 45分～60分 (予定)*³

*1…B 講演の発表資格は正会員もしくは博士後期課程の学生会員とする。

*2…セッションにより募集する発表形式が異なります。詳細は 2 講演申込分類をご覧ください。

*3…セッションにより異なります。

1.7 発表言語

すべての部門で英語での発表が可能です。

1.8 発表用スライド (資料)

プレゼンテーション時に使用するスライド (資料) の言語は可能な限り英語で作成して下さい。

1.9 発表機材

口頭講演

すべての会場に液晶プロジェクター・RGB ケーブル・PC 切替機を用意します。

講演者は PC を持参して下さい。またトラブル対策としてバックアップファイル (ウイルスのチェック及び OS 互換性に関してチェック済みであることを USB メモリで) をご用意下さい。

ポスター

ポスターボード (縦 180 cm×横 90 cm [予定]) と画鋏を用意します。

1.10 採否の決定

申込みいただいた講演の採否及びプログラム編成 (“口頭 (A 講演・B 講演) もしくは C 講演・D 講演)/ポスター”の発表形式、発表部門、日時など) は第 89 春季年会実行委員会に一任とします (希望と異なる場合もあります)。

12 月中旬に各部門別にプログラム編成を行いますので、申込者はこの時期、プログラム編成委員からの問合せになるべく対応できるようご配慮下さい。

1.11 講演番号の通知

1 月上旬に郵便で申込者宛に通知します。通知未着の場合には平成 21 年 1 月 7 日～11 日の間に必ず事務局まで E-mail にてお問い合わせ下さい。予稿原稿提出には講演番号が必要です。

1.12 予稿原稿の作成と提出

2 講演予稿原稿 (988 ページ) の項目をご覧ください。

1.13 講演申込の取消

講演申込後に発表を取り消すと、プログラム編成に支障をきたすだけでなく、前後の講演者に対しても迷惑がかかります。社内審査がある場合は、早めに手続きを開始し、必ず発表許可を取ってから申し込んで下さい。また、学生が申込者の場合は、講演申込内容に関して指導教員の確認を受けてから申し込んで下さい。

理由の如何にかかわらず、講演予稿原稿の提出後の差し替え、取り下げは認められません。

1.14 講演申込内容の公表

採択された講演申込内容は、連絡先に関する部分を除き、

講演プログラムやデータベースの形で下記により公開・無償配布します。なお、公開したプログラムに変更が生じた場合は春季年会ウェブサイトにて告知します。

・講演プログラム	平成 21 年 2 月下旬
・プログラム検索 (携帯サイト)	平成 21 年 3 月上旬
・日本化学会研究者データベース	会期終了後
・JST JDreamII	会期終了後

1.15 各種講演賞

春季年会では「学生講演賞」「優秀講演賞 (学術)」「優秀講演賞 (産業)」の 3 種類の講演賞を設けております。各賞の対象者・発表形式・対象部門等は以下のとおりです。是非この機会に奮って応募下さい。

学生講演賞

対象者	博士後期課程の学生会員
発表形式	口頭 B 講演
対象部門	アカデミック・プログラムの全部門
審査申込	上記条件を満たす講演すべてが対象となるため申込の必要はありません。

授与委員会 第 89 春季年会実行委員会

優秀講演賞 (学術)

対象者	平成 21 年 4 月 1 日時点で満 36 歳に達していない正会員
発表形式	口頭 B 講演
対象部門	アカデミック・プログラムの全部門
審査申込	講演申込時に審査を希望する旨を申請して下さい。

授与委員会 第 89 春季年会実行委員会

優秀講演賞 (産業)

対象者	講演申込時に 40 歳以下の若手講演発表者
発表形式	口頭 A 講演・口頭 B 講演・口頭 C 講演・口頭 D 講演
対象部門	12.高分子・15.材料化学・16.材料の機能・17.材料の応用・18.資源利用化学・ATP
審査申込	講演申込時に審査を希望する旨を申請して下さい。

授与委員会 日本化学会産学交流委員会

なお、従来の優秀講演賞及び講演奨励賞は名称を優秀講演賞 (学術)、優秀講演賞 (産業) と変更しておりますが、応募条件及び選考基準については変更していません。

優秀講演賞 (産業) については 996 ページに別途お知らせがありますのでそちらをご覧ください。

1.16 アジア国際シンポジウム

学術研究活性化委員会では、春季年会の活性化を目的として、我が国とアジア諸国の産学の若手研究者によるアジア国際シンポジウムを開催することになりました。開催予定のディビジョンは下記のとおりです。

物理化学ディビジョン
光化学ディビジョン
理論化学・情報化学・計算化学ディビジョン
錯体化学・有機金属化学ディビジョン
有機化学ディビジョン
生体機能関連化学・バイオテクノロジーディビジョン
触媒化学ディビジョン

高分子ディビジョン

コロイド・界面化学ディビジョン

資源・エネルギー・地球化学・核化学・放射化学ディビジョン

2 講演予稿原稿

2.1 提出期間

平成21年1月15日～1月27日

締切期日までに講演予稿原稿を提出しない場合は講演を中止したものとしますのでご注意ください。

2.2 提出方法

講演予稿原稿をPDFファイルで作成の上、春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の予稿原稿投稿フォームから提出して下さい。提出の際には**大会コード**、**講演申込受付番号**、**講演番号**が必要です(大会コード: nenkai89)。

フォームが使用できない場合は、お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際ですと対応できかねる場合がございます。

受理後の原稿の訂正はできません。また、提出された原稿は返却いたしませんので、あらかじめご了承下さい。

2.3 作成方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上で公開するテンプレート(雛型)をお使いいただき、PDFファイルを作成して下さい。

講演予稿原稿には和文・英文の演題・研究場所・発表者氏名及び和文(または英文)の本文に加え、英文のアブストラクト(本文が和文の場合のみ)・英文のキーワードを入れ、作成して下さい。予稿集はモノクロで印刷され、1講演あたりのサイズはB5判の1/4です。図表・写真等を入れる場合には、この点を考慮して下さい。

詳細は講演番号通知に同封の「**予稿原稿作成要項**」、もしくは春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) をご覧下さい。

3 講演申込分類

3.1 アカデミック・プログラム

講演申込分類は年会ごとに見直しを行っております。講演申込分類の誤りはプログラム編成ひいては会期中の運営にも多大な支障をきたしますので必ずご確認下さい。

1. 化学教育・化学史

A. 初等中等教育(実践例など)、B. 大学教育(実践例など)、C. 化学史・化学技術史、D. 化学入試問題の評価、E. その他

2. 物理化学—構造

A. マイクロ波分光、B. 赤外・ラマン分光、C. 電子スペクトル・電子分光・電子状態、D. 磁気共鳴、E. 結晶構造、F. 固体表面、G. その他

3. 物理化学—物性

A. 気体、B. 液体・溶液、C. 液晶・ガラス、D. 相平衡・相転移、E. 表面・薄膜・ナノ物性、F. クラスタ・ナノチューブ、G. 電導体、H. 磁性体、I. 光物性・その他

4. 物理化学—反応

A. 気相反応(機構・速度・ダイナミクス)、B. クラスタ、C. 光化学反応(液相・固相・表面・膜)、D. スピン化学・磁場効果、E. 電子移動・エネルギー移動、F. 放射線化学、G. 電気化学・界面化学、H. 非平衡系反応、I. その他

5. 無機化学

A. 無機化学(1. 反応、2. 合成、3. 構造・物性)、B. 固体化学(1. クラスタ化合物・包接化合物・ゼオライト化合物、2. 低次元構造化合物、3. 三次元構造化合物、4. 無定形物質)、C. 溶液化学、D. 放射・核化学、E. 希土類化合物、F. その他

6. 錯体化学・有機金属化学(主たる金属元素記号を1つ記入のこと)

A. 錯体化学(1. 合成、2. 構造、3. 反応、4. 物性、5. その他)、B. 有機金属化学(1. 合成、2. 構造、3. 反応、4. 触媒、5. 有機合成、6. その他)、C. 生物無機化学、D. 材料関連化学、E. その他

7. 有機化学(主として物理有機化学的なもの)

A. 構造と物性(1. 分子構造、2. 立体化学、3. π 共役系、4. 物性、5. 分子認識、6. その他)、B. 反応機構(1. 反応性中間体、2. イオン反応・加溶媒分解など、3. ラジカル・電子移動・光化学反応など、4. 理論計算、5. その他)、C. その他

8. 有機化学—反応と合成(一般的反応と合成に関する研究)

A. 脂肪族・脂環式化合物、B. 芳香族化合物、C. 複素環化合物、D. ヘテロ原子化合物、E. 有機金属化合物(主たる金属元素記号を1つ記入のこと)、F. 有機光化学、G. 有機電子移動化学、H. ハイスループット合成(1. コンビケム・固相合成、2. 新反応場(フロー法、マイクロ波、固定化法、反応媒体))、I. その他

9. 天然物化学(構造、合成、生合成など)

A. 脂肪酸関連化合物、ポリフェノール(ポリ環状エーテル、マクロリド、エンジン系化合物も含む)、B. テルペン、ステロイド、C. アルカロイド、D. 糖、E. アミノ酸、ペプチド、F. コンビケム・固相合成、G. その他

10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー

A. 機能性低分子・分子認識(錯体、ポルフィリン、補酵素、イオン、ラジカルなど)、B. 核酸(モデル化合物を含む)、C. タンパク質・酵素(タンパク質工学、酵素工学、ペプチド、モデル化合物を含む)、D. 糖(糖鎖工学、モデル化合物を含む)、E. 脂質・生体膜(モデル化合物、モデル膜を含む)、F. 細胞(バイオプロセス、細胞工学、代謝工学、培養工学を含む)、G. 生命情報(ゲノム、遺伝情報発現など)、H. 環境バイオテクノロジー・食品バイオテクノロジー・バイオセンサー、I. メディカルバイオテクノロジー、J. 生体触媒反応、K. その他

11. 分析化学

A. 原子・分子スペクトル分析、B. レーザー分光分析(フォトサーマル、蛍光、時間分解、顕微分光など)、C. X線分析、D. センサー、E. 電気化学分析、F. 質量分析、G. フローインジェクション分析(FIA)、H. 液体クロマトグラフィー(LC)、I. ガスクロマトグラフィー(GC)、

J. 電気泳動分析、K. マイクロ・ナノ分析 (マイクロチップ・ウェル、超微粒子、単一分子検出など)、L. 分離・抽出・分析試薬の設計、M. プローブ顕微鏡、N. 界面分析、O. 標準試料・標準化、P. ケモメトリックス、データ解析法、Q. 環境・地球化学関連分析、R. 臨床・医療・法医学分析、S. バイオ分析 (核酸、遺伝子、タンパク質、細胞、イメージングなど)、T. 食品・医薬品分析、U. 材料分析・材料解析 (表面分析を含む)、V. 有機・無機・金属・複合材料分析など、X. その他

12. 高分子

A. 高分子合成 (1. ラジカル、2. イオン、3. 配位触媒、4. 開環、5. 重縮合・重付加、6. ブロック・グラフト共重合、7. その他)、B. 高分子反応、C. 高分子構造・物性、D. 機能性高分子 (1. 高分子触媒、2. 電気・電子・磁性、3. 光、4. 情報・記録、5. バイオメディカル、6. 膜・分離、7. ゲル、8. その他)、E. 高性能高分子、F. 生体高分子、G. 高分子工業、H. その他

13. 触媒

A. 表面・吸着、B. 構造・物性・計算、C. 調製方法、D. 水素化・脱水素、E. 分解・改質・脱硫等、F. 酸化、G. 酸・塩基触媒、H. ゼオライト、I. メソポーラス物質、J. 環境触媒、K. 光触媒、L. 錯体・クラスター、M. 有機合成・重合、N. その他

14. コロイド・界面化学

A. 微粒子分散系 (1. サスペンション、2. 微粒子・ナノ粒子、3. 高分子コロイド、4. 界面電気現象、5. レオロジー、6. その他)、B. 分子集合体 (1. ミセル、2. 高分子溶液、3. 超分子・高次分子集合体、4. 液晶・ゲル、5. エマルション、6. その他)、C. 組織化膜 (1. 単分子膜・LB膜、2. 自己組織化膜、3. 二分子膜 (ベシクル・リボソーム等)、4. 界面物性 (気-液、液-液)、5. その他)、D. 固体表面・界面 (1. 表面構造と物性・機能、2. 吸着と触媒、3. 表面力・トライボロジー、4. マイクロファブリケーションとナノテクノロジー、5. その他)、E. 新領域、F. 国際セッション (口頭講演 (英語) のみ募集)

15. 材料化学

A. 製造法・組成・形態・物性 (1. 製造法 (ゾル・ゲル法など)、2. 無機材料、3. 有機材料・複合材料、4. 高分子材料、5. 炭素、6. ガラス・アモルファス物質、7. 薄膜、8. 微粒子、9. その他 (金属材料など上記以外の項目)

16. 材料の機能

A. 生体機能 (1. 生体適合、2. DDS、3. リボソーム、4. 酵素、5. その他)、B. 光化学機能 (1. フォトクロミズム、2. 光化学増幅、3. 光硬化・分解、4. その他)、C. エネルギー変換機能 (1. 光電・圧電・焦電、2. 化学的変換、3. その他)、D. 電子・磁気機能 (1. 超伝導、2. 導電、3. 半導、4. 絶縁、5. 磁気、6. 光磁気、7. その他)、E. 光学機能 (1. 偏光、2. 変調・増幅、3. 非線形、4. その他)、F. 分離機能 (1. 輸送、2. 吸着、3. 膜、4. イオン交換、5. 包接、6. 光学分割、7. その他)、G. その他

17. 材料の応用

A. センサー (1. 温度・湿度、2. 物理量 (圧力・速度など)、3. 成分、4. バイオセンサ、5. その他)、B. 記録・

記憶 (1. カラーハードコピー、2. 写真、3. 磁気記録、4. 光記録、5. 印刷、6. その他)、C. 表示 (1. CRT、2. 液晶、3. プラズマ、4. EC、5. EL、6. その他)、D. 電子部品関連 (1. 半導体、2. レジスト、3. 封止、4. 接続・実装、5. その他)、E. 光学部材 (1. レンズ、2. ファイバー、3. 非線形光学部材、4. その他)、F. 電池・エネルギー (1. 一次電池、2. 二次電池、3. 太陽電池、4. 燃料電池、5. その他電池、6. 水素吸蔵合金、7. その他)、G. 分離部材 (1. 吸水ゲル、2. イオン交換、3. 選択透過膜、4. その他)、H. 染料・塗料・インキ (1. 光硬化、2. キュアリング、3. 機能性色素、4. 分散、5. 光造型、6. その他)、I. 接着剤・界面活性剤 (1. ナノ粒子、2. 自己組織化膜、3. 表面・界面、4. 接着・粘着、5. その他)、J. ライフサイエンス、K. 医薬・農薬、L. 環境材料 (1. リサイクル、2. エコロジー、3. 環境調和、4. 劣化、5. 安定化、6. その他)、M. 高性能材料 (1. ハイブリッド、2. アロイ、3. ブレンド、4. ゼルゲル、5. 耐熱難燃性材料、6. 高強度高弾性材料、7. その他)、N. その他

18. 資源利用化学

A. 石油 (1. 石油化学、2. 石油精製、3. アップグレーディング、4. 転換・分解、5. 反応・触媒、6. その他)、B. 石炭 (1. 石炭化学、2. 石炭液化、3. 石炭ガス化、4. コールタール化学、5. 炭素材料、6. 分離・利用、7. 反応・触媒、8. その他)、C. ガス化学 (1. 天然ガス化学、2. 合成ガス化学、3. 反応・触媒、4. その他)、D. 環境資源化学 (1. CO₂ 捕捉、2. CO₂ 転換、3. 反応・触媒、4. その他)、E. 再生可能資源化学 (1. バイオマス、2. マリーンバイオ、3. 回収・再利用、4. 廃プラスチックの資源化、5. その他)、F. 海洋資源化学 (1. 海水溶存資源、2. 海底資源、3. その他)、G. 鉱物資源化学 (1. 金属資源、2. 非金属資源、3. その他)、H. 資源開発・管理 (1. 分布調査、2. 保護、3. 利用、4. 回収、5. 省資源、6. その他)、I. その他

19. エネルギーとその関連化学

A. エネルギー変換 (1. 燃料電池、2. 太陽電池、3. 電気化学プロセス、4. 光電気化学、5. その他)、B. エネルギー貯蔵 (1. キャパシタ、2. 二次電池、3. 水素貯蔵、4. 相変化・構造変化、5. その他)、C. エネルギーの高度利用 (1. 光触媒、2. 省エネルギー素材、3. その他)、D. 電気化学 (1. 腐食防食、2. 固体電解質、3. 熔融塩、4. 電解合成、5. その他)、E. 光化学 (1. 光誘起電子移動、2. 励起状態と緩和過程、3. 光合成関連化学、4. レーザー誘起反応、5. 有機光化学、6. その他)、F. 放射線化学・核化学・放電・プラズマ、G. 高温化学・燃焼・火薬、H. 超音波化学、I. その他

20. 環境・グリーンケミストリー、地球・宇宙化学

A. 地球化学・宇宙化学、B. 大気環境化学 (1. 環境動態、2. 環境保全技術、3. 環境分析、4. その他)、C. 水質環境化学 (1. ~ 4. は上と同じ)、D. 廃棄物・土壌環境化学 (1. ~ 4. は上と同じ)、E. 安全化学、F. グリーンケミストリー、G. 地球環境への材料の応用 (1. 生分解・光分解、2. リサイクル、3. 海洋・砂漠・オゾン、4. その他)、H. 環境調和、I. 光触媒 (1. 酸化還元反応、2. 親

水化反応、3. 水分解、4. 環境改善、5. その他)、J. その他

21. 理論化学・情報化学・計算化学

A. 電子状態、B. 化学反応、C. ダイナミクス、D. バイオ、E. 材料、F. シミュレーション、G. 数理化学、H. 化学情報、I. その他

22. 有機結晶

A. 結晶の構造と物性、B. 分子配列制御、C. 分子認識、D. 動的分子挙動、E. 結晶中の反応、F. 結晶の機能と物性、G. その他

3.2 アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)

今回の討論主題は「未来社会を創造するケミカルテクノロジー：材料化学、環境・新エネルギー、バイオケミカル」で、以下 T1 から T9 までの9つのセッションを企画しています。

セッションにより開催予定日及び募集する発表形式が異なりますのでご注意ください。

なお、下記に掲載している基調講演・招待講演に関する情報は8月20日時点のものです。最新情報は春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) にて公開いたしますのでそちらもご覧下さい。

開催日

材料化学、環境・新エネルギー 3月27日・28日
バイオケミカル 3月29日・30日

募集する発表形式

材料化学、環境・新エネルギー 口頭講演*・ポスター
バイオケミカル ポスターのみ

*開催日が限られているため募集件数が多い場合には口頭からポスターに移っていただくこともありますので、あらかじめご了承下さい。

3.2.1 材料化学 (3月27日・28日開催)

T1. 超ファインパターン形成技術・材料の最前線

A. EUV リソグラフィ、B. ナノインプリント、C. その他

セッションオーガナイザー：田川精一（阪大産研・教授）、松井真二（兵庫県大高度産業科学技術研・教授）

現在の情報化社会を支える半導体製造分野では、微細化（高集積化）のための露光源の短波長化が推し進められ、波長 193 nm の ArF エキシマレーザーと液浸技術を組み合わせた液浸リソグラフィの次は Extreme Ultraviolet (EUV, 13.5 nm) 光が露光源として期待されている。露光源の短波長化は高エネルギー化を意味し、EUV では材料のイオン化エネルギーを越え、電離放射線領域に入るため材料化学の観点から新たな展開が求められている。さらに、過去半世紀の光リソグラフィ開発の流れとは一線を画するナノインプリント技術が近年注目を集めているが、ナノインプリント技術は、EUV リソグラフィを含め従来型のリソグラフィが制御に苦勞しているラインエッジラフネス (LER) と呼ばれるパターンのナノ形状の制御において優位性を持ち今後の発展が期待されている。これらの微細加工技術を材料

面から見たときに、両技術とも従来型の材料から大きな飛躍があり、今後の展開が興味深い。

「EUV リソグラフィ」のセッションでは、現在実用化されている液浸露光技術やダブルパターンニング技術の紹介も織り込みながら、「超ファインパターン形成技術」の全体像を概説する。さらにレジスト材料を中心に、EUV リソグラフィ開発の最先端の取り組みを紹介する。EUV リソグラフィ用材料に課せられている要求は、感度、解像度、LER の制御のすべてにおいて、材料の極限に迫るものである。ここにおいて像形成反応が分子の選択的電子励起から開始されていた従来の材料から、非選択的イオン化を中心とした新しい材料が求められ、ブレイクスルーが期待される本分野の将来について活発に議論する場を提供したい。

「ナノインプリント」のセッションでは、これまでの半導体リソグラフィプロセスとは全く異なる超ファインパターン形成技術であるナノインプリントの材料・プロセス・装置の最近の進展とデバイス応用展開について紹介する。まず、ナノインプリント研究の世界的動向について紹介し、材料・プロセスの研究開発最前線、量産化装置開発の現状、さらに量産化が、確実視されているパターンドメディア等への応用例について紹介し、本分野の現状と将来について活発に議論する場を提供したい。

基調講演

- ・ EUV リソグラフィの現状と今後の展望（仮題）講演者 交渉中
- ・ 世界におけるナノインプリント技術開発動向（仮題）（兵庫県大高度産業科学技術研・教授）松井真二

招待講演

- ・ EUV レジスト材料・プロセス開発状況（仮題）（半導体先端テクノロジーズ・グループリーダー）井谷俊郎
 - ・ EUV レジスト中での潜像形成機構の研究（仮題）（阪大産研・准教授）古澤孝弘
 - ・ JSR における EUV リソグラフィ材料の開発（仮題）（JSR 半導体材料研究所・所長）下川 努
 - ・ ナノインプリントにおける樹脂成型過程と樹脂特性（仮題）（阪府大院工・教授）平井義彦
 - ・ 光ナノインプリントリソグラフィ（仮題）（産総研先進製造プロセス・主任研究員）廣島 洋
 - ・ 量産対応ナノインプリント装置の現状と課題（仮題）（東芝機械微細転写事業部・事業部長/微細転写技術部長）後藤博史
 - ・ 高分子ブロック共重合体薄膜の化学的自己組織化制御による微細パターン形成（仮題）（日立研究所電子材料研究部・電気化学ユニットリーダー/主任研究員）吉田博史
- 上記のほか、多数の依頼講演を予定。

T2. ディスプレイ用材料の開発最前線

A. フラットパネルディスプレイ、B. OLED、C. 電子ペーパー、D. その他

セッションオーガナイザー：下平美文（静岡大院創造科学技術研究部・教授）、村田英幸（北陸先端大マテリアル・准教授）、小林範久（千葉大院融合科学・教授）

ディスプレイに関する技術革新は著しく、ディスプレイ

市場の構造は激しく変わりつつある。中でも液晶ディスプレイ (LCD)、プラズマディスプレイ (PDP) などのフラットパネルディスプレイは、中核の商品として市場拡大を続けている。さらに、次世代 FPD として有機 EL (OLED) などの研究開発も活発に行われ、新しい商品が期待されている。また、従来の紙媒体の代替として、また曲げられるディスプレイとして「電子ペーパー」「フレキシブルディスプレイ」の研究も活発に実施され、様々な方式が提案され、一部は製品としてすでに上市されるに至っている。

本セッションでは、フラットパネルディスプレイ (LCD、PDP、FED など)、OLED、電子ペーパーの 3 つのサブセッションを設け、各ディスプレイの現状と技術課題、さらにそれらを支えるデバイスや部材、素材である各種の有機、無機、高分子材料の最新技術などの動向を、招待講演、依頼講演にて発表していただき、討論する。革新的な技術の創生に向けた議論の場を提供すべく、新技術の芽となるものから実用技術の最新動向まで、広くテーマを募集する。

基調講演

- ・有機発光材料の分子設計とその励起状態の挙動 (仮題) (筑波大・名誉教授) 徳丸克己

招待講演

- ・FPD 全般の高品質化動向等 (仮題) 講演者交渉中
- ・有機エレクトロニクスにおける界面電子構造 (仮題) (千葉大先進科学センター・教授) 石井久夫
- ・有機 EL 素子に用いられる遷移金属錯体の燐光物性の解析と予測 (仮題) (富山大院理工・教授) 野崎浩一
- ・有機 EL 素子の光学的効果と光取り出し向上化技術 (仮題) (金沢工大・教授) 三上明義
- ・デバイスシミュレーションによる有機 EL 電気伝導解析 (仮題) (九大院システム情報・准教授) 服部励治
- ・電子ペーパーの現状と将来展望 (大日本印刷研究開発・事業化推進本部) 高橋達見
- ・電子ペーパーの技術開発・商品化の現在と将来 (E-ink) 桑田良輔
- ・電子ペーパー用高分子微粒子の新展開 (山形大院理工・教授) 川口正剛

上記のほか、フラットパネルディスプレイサブセッションとして数件の招待講演、ディスプレイ用材料の開発最前線セッションとして多数の依頼講演を予定。

T3. 光学材料の開発最前線

A. 有機系光学材料、B. ポリマー光学材料、C. 無機系光学材料、D. その他

セッションオーガナイザー：横山士吉 (九大先導研・教授)、小池康博 (慶應大理工・教授)、西井準治 (産総研光技術研究部門・主幹研究員)

光学材料開発の進展は近年目覚ましいものがあり、光変調素子、光スイッチ素子、受・発光素子、光ファイバ、光導波路、ディスプレイ、情報処理用分子素子など、実用化に向けた開発とともに、これらの高性能化に向けた研究開発が進められている。この背景には、マルチメディア社会の進展に対応するため、光を用いた、あるいは光と電気と併用した各種信号の伝送・処理の必要性が高まっているこ

とがある。無機材料においては、多くの実用機器が開発され高速・大容量の情報通信を実現しており、今後もますます、高性能化が期待されている。

一方、有機・高分子材料に関しては、近年の飛躍的な電気光学特性の向上とスイッチングの高速性が報告されているように、未来技術として材料・デバイスの両側面から研究が活発に進められている。さらには有機・無機ハイブリッド材料においても広く検討がなされている。またバルクでの光学特性からナノレベルでの光学特性の活用も図られており、フォトニクス結晶に関する研究などが進められている。

本セッションではこのような広い意味での情報伝送・処理用光学材料・電気光学材料について、最先端の研究開発を行っている方々の招待講演、依頼講演をもとに、本分野の現状と将来について議論できる場を提供する。

基調講演

- ・電気光学ポリマーへの期待と可能性 (仮題) (東北大・名誉教授) 戒能俊邦

招待講演

- ・液晶フォトニックデバイス (東工大院理工・教授) 竹添秀男
 - ・高速液晶材料の現状と将来展望 (九大先導研・教授) 菊池裕嗣
 - ・有機・高分子材料による自己組織化フォトニック結晶と光デバイスへの展開 (物材機構光材料センター・研究員) 古海誓一
 - ・Recent Development of Optical Polymeric Material (仮題) (Polytechnic Institute of NYU・Research Professor) 岡本善之
 - ・非接触光書き込みによる表示システムの開発 (仮題) (理研和田超分子科学・主任研究員) 和田達夫
 - ・ポリマ光導波路を適用した機能集積モジュール/基板の開発 (仮題) (日本電気ナノエレクトロニクス研究所・主任研究員) 中野嘉一郎
 - ・ポリシラザンを前駆体とするシリカ薄膜および有機・無機ハイブリッド薄膜の作製と性質 (仮題) (関西大化学生命工・教授) 幸塚広光
 - ・光機能性を有する金属カルコゲナイド-ナノ結晶の開発 (仮題) (奈良先端物質創成科学・教授) 河合 壯
 - ・液相法による誘電体および金属の光多重散乱媒体の作製と光の閉じ込め・増幅機能の創出 (仮題) (京大院工・准教授) 藤田晃司
 - ・ゲル化窒化合成した酸窒化物系光機能材料 (仮題) (北大院工・教授) 吉川信一
- 上記のほか、多数の依頼講演を予定。

T4. プリント・ストレージ用材料の開発最前線

A. インクジェット材料、B. ホログラフィックメモリー材料、C. その他

セッションオーガナイザー：小関健一 (千葉大工・准教授)、志村 努 (東大生産研・教授)

染料・顔料による写真等の画像出力だけではなくインクジェットや電子写真のプリンティング技術はデジタルファ

アプリケーションとしても注目されている。

大容量のストレージ技術としてはブルーレイディスク製品以後の新しい光メモリー材料や方式についての関心も高まってきている。これらの技術やプロセスの革新や材料の相互作用や挙動に関しても新たなアプリケーションに向けた技術開発の話題が求められている。

本セッションでは基礎研究から製品化だけではなく、将来構想までの幅広い技術に関して、招待講演、依頼講演を元に、本技術分野の将来について議論を行いたい。

基調講演・招待講演

講演者交渉中

T5. 未来材料

A. 先端機能材料、B. ナノ触媒材料、C. 生体模倣触媒、D. その他

セッションオーガナイザー：細野秀雄（東工大フロンティア研究センター・教授）、増田秀樹（名工大院工・教授）

A. 先端機能材料

ナノサイエンスやナノテクノロジーの進展によって、化学、物理、生物という学問分野の壁が低くなりつつある。材料の分野においても、セラミックス、ポリマー、金属という伝統的な分類を超えた試みの中から、物質科学のブレークスルーを伴う、新しいコンセプトの材料を創り、社会の困難の克服や産業化につなげることが求められている。本セッションでは、新高温超電導物質、バルクでは実現できないヘテロ界面を利用した電子・イオン機能、特異的なナノ構造に起因した新機能、計算による機能設計などに注目し、これらの分野で挑戦的研究を行い、国際的成果をあげられている方々を招き、本技術分野の将来について議論を行いたい。

B. ナノ触媒材料、C. 生体模倣触媒

21世紀に入って、これまでのような先端研究だけを意識した開発研究は許されなくなっている。特に循環型社会関連六法の成立に伴い、今後はリデュース、リユース、リサイクルのような3Rに配慮した環境負荷の少ない材料の選定が重要な課題となっている。このような素材として最近、今まで以上に生物機能が注目されている。中でも生体系金属錯体は生体中のエネルギー変換・物質変換・情報変換や輸送などのプロセスの要所で重要な機能を果たしており、低環境負荷材料を考えたときこれらを利用した材料開発研究の推進は一刻を争うものである。本セッションでは、生体系反応場を意識した観点から、物質変換・エネルギー変換・センサー等の開発を基礎研究から応用研究までを行っている研究者を招き、本分野の現状と将来について議論できる場を提供する。

基調講演

- ・透明酸化物の研究から生まれつつある新領域と応用（東工大フロンティア研究センター・教授）細野秀雄
- ・メソ多孔体合成の新展開とナノ材料としての可能性（早大理工・教授）黒田一幸
- ・化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換を目指した錯体触媒の開発（分子研・教授）田中晃二

招待講演

- ・3次元構造・粒子形態制御による高機能ナノ構造触媒の創出（東大院工・教授）水野哲孝
 - ・表面上の触媒活性構造の解析法と機能創出（分子研・准教授）唯美津木
 - ・水中で水素を活性化するアクアノ触媒（九大未来化セ・教授）小江誠司
 - ・ナノ空間における触媒場設計（九大院理・教授）北川宏
 - ・エネルギー変換酵素と触媒：理想と現実を繋ぐ課題と展望（九大先導研・教授）成田吉徳
 - ・ビタミンB₁₂酵素機能を有するバイオインスパイアード触媒の創製と環境浄化触媒としての応用（九大院工・教授）久枝良雄
 - ・水の分解触媒作用を有する金属多核錯体の合成と機能評価（仮題）（九大院理・教授）酒井 健
 - ・生体機能を可視化する分子プローブのデザイン・合成・生物応用（阪大院工・教授）菊地和也
 - ・実用的な触媒としての利用を旨としたシトクロム P450の改良（東農工大院工・准教授）中村暢文
- 上記のほか、先端機能材料サブセッションとして4件の招待講演、未来材料セッションとして多数の依頼講演を予定。

3.2.2 環境・新エネルギー（3月27日・28日開催）

T6. 環境

A. 革新的省エネ省資源プロセス、B. 可視光光触媒、C. 高効率分離技術、D. その他

セッションオーガナイザー：辰巳 敬（東工大資源研・教授）、佐伯義光（TOTO・執行役員/総合研究所長）、小堀良浩（新日本石油水素新エネ研・プリンシパルリサーチャー）

いかなる生産活動も環境問題への対応が求められる時代において、化学が果たすべき役割はますます増大している。そこで本年度より「環境セッション」を独立させ、環境問題解決に化学技術がどう貢献できるか議論する場を設けることとした。初年度の今回は環境に関連する代表的な技術分野を3つ選択し、それぞれサブセッションのテーマとして設定した。

A. 革新的省エネ省資源プロセス

「低炭素社会」に向かう世界の中で、我が国の化学産業が世界をリードしていくためにはどのような技術革新を目指すべきか。「省エネルギー・省資源」、「革新的触媒・プロセス技術」、「グリーンプロセス」、「石油あるいは化石資源からの脱却」、「再生可能資源」などをキーワードに化学プロセスの将来像について活発な議論を行いたい。

B. 可視光光触媒

日本が生んだ世界に誇る技術である光触媒はエネルギー及び環境という地球の抱える大きな問題を一挙に解決する力を秘めている。本サブセッションでは、可視光光触媒の最近の進歩を概観するとともに、将来に向けた研究開発・応用の方向性を議論したい。

C. 高効率分離技術

温暖化ガス削減は21世紀の化学技術の方向性を決める

キーワードであり、ここで分離技術は極めて重要な役割を担うことが期待されている。本サブセッションでは①CO₂分離・回収②省エネルギー分離技術の2つの側面から分離技術に求められる将来像を議論したい。

基調講演

- ・炭素をきちんと使う—化学プロセス開発事例より（旭化成ケミカルズ・取締役/常務執行役員）永原 肇
- ・市場拡大にむけた NEDO 光触媒産業創成プロジェクト（東大院工・教授）橋本和仁
- ・CCS の今後と CO₂ 分離回収技術に対する期待（産総研エネルギー技術・グループリーダー）西尾匡弘

招待講演

- ・化学原料および燃料の多様化に向けて（新日本石油中央技術研究所・所長）岡崎 肇
- ・金触媒による化学プロセス革新の可能性（首都大院都市環境・教授）春田正毅
- ・化学産業の低炭素化に向けて 究極の効率化～非化石資源への転換（産総研つくばセンター・次長）島田広道
- ・酸化タングステンをベースとした高活性可視光応答型光触媒の開発（北大触媒センター・准教授）阿部 竜
- ・新規複合酸化物光触媒材料の研究開発（仮題）（物材機構光触媒材料センター・センター長）葉 金花
- ・室内環境で働く高性能な可視光応答型酸化タングステン光触媒の開発（仮題）（産総研エネルギー技術・主任研究員）佐山和弘
- ・光触媒応用商品による環境貢献（仮題）（TOTO・執行役員/総合研究所長）佐伯義光
- ・CO₂ 選択透過促進輸送膜の開発とメンブレンリアクターを用いた水素製造プロセスへの展開（神戸大院工/神戸大先端膜工学センター・教授/センター長）松山秀人
- ・無機膜を用いる分離・反応プロセス（産総研コンパクト化学プロセス研究センター・センター長）水上富士夫
- ・逆浸透膜による海水淡水化技術（東レ地球環境研究所・所長）辺見昌弘

上記のほか、多数の依頼講演を予定。

T7. 新エネルギー技術

- A. 次世代蓄電技術、B. 燃料電池・水素エネルギー技術、C. 次世代太陽電池、D. その他

セッションオーガナイザー：逢坂哲彌（早大先進理工・教授）、大崎隆久（東芝 SciB 開発製造部）、太田健一郎（横国大院工・教授）、瀬川浩司（東大先端研・教授）

本セッションは、環境関連技術の中でも特に「エネルギー」に焦点を当て、低炭素社会の実現を目指す新エネルギー技術として「次世代蓄電技術」、「燃料電池・水素エネルギー技術」、「次世代太陽電池」の3つのサブセッションを設け、幅広くいろいろな材料やシステムについて議論を行う。

私たちを取り巻く環境の最重要課題である地球温暖化の抑制、低炭素社会の実現に対して、これらの新エネルギー技術はそれぞれに大きく貢献できる技術である。モバイル機器、電気自動車、発電設備など大小多様なアプリケーションに、それぞれの用途に適した高性能・高機能な各種の

新しいエネルギー貯蔵・変換デバイスが求められており、研究開発が盛んに行われている。そこで、本セッションでは容量・出力・寿命・安全性などの高性能化を指向した、蓄電素子及びその材料に関する蓄電技術や、燃料電池、太陽電池といったクリーンな発電技術、さらに燃料電池には欠かせない水素の製造・貯蔵・精製等の水素エネルギー技術に関する最近の進展を幅広く議論し、企業間の情報交換、あるいは産学連携のきっかけとなるような発表の場を提供する予定である。

基調・招待講演はこの分野のリーダー的存在の方々、依頼講演は第一線で活躍されているの方々にお話し、活発な議論を行いたいと考えているので、企業、大学、研究所からの多くの参加と一般講演での発表を期待している。

基調講演

- ・自動車用リチウムイオン電池の開発動向と今後の展開（オートモーティブエナジーサプライ開発部・エグゼクティブチーフエンジニア）内海和明
- ・ここまで進んだ水素燃料電池自動車（トヨタ自動車 FC 開発センター・主査）広瀬雄彦
- ・低炭素社会と水素エネルギー（東大院理工・教授）岡崎 健
- ・革新的太陽光発電で拓く低炭素社会（仮題）（産総研太陽光発電研究センター・センター長）近藤道雄

招待講演

- ・高効率小形 SOFC の開発並びに今後の展望（京セラ総合研究所・SOFC プロジェクト責任者）吉田 真
 - ・携帯機器用燃料電池の実用化に向けて（東芝研究開発センター・研究主幹）五戸康広
 - ・脱白金を目指した PEFC 用遷移金属酸化物系酸素還元触媒の展望（横国大院工・産学連携研究員）石原顕光
 - ・りん酸形燃料電池の実績と新たな展開（富士電機アドバンステクノロジー環境・新エネルギー開発センター燃料電池部・担当部長）岡 嘉弘
 - ・液化水素と当社の取り組み（岩谷産業水素エネルギー部・上級理事水素エネルギー部長）建元 章
 - ・水素・燃料電池自動車の安全性（日本自動車研究所 FC-EV センター・センター長）渡辺正五
 - ・演題（仮題）（所属・役職）発表者氏名 ※回答待ち
 - ・室内用途向け色素増感太陽電池の開発（仮題）（松下電工先行技術開発研究所）関口隆史
 - ・実用化に向けた色素増感太陽電池の展望（仮題）（アイシン精機エネルギー開発部・グループマネージャー）豊田竜生
- 上記のほか、次世代蓄電技術サブセッションとして、自動車用新電池技術関連の招待講演を4件、新エネルギー技術セッションとして多数の依頼講演を予定。

3.2.3 バイオケミカル (3月29日・30日開催)

特別基調講演

- ・日本の科学技術政策とiPS細胞および高温超伝導における新発見が占める位置(科学技術振興機構・理事長)北澤宏一

T8. グリーンバイオ (ポスター発表のみ募集)

協賛：日本化学会生体機能関連化学部会
日本化学会バイオテクノロジー部会
フロンティア生命化学研究会

A. バイオコンバージョン、B. バイオマスの新活用、C. その他

セッションオーガナイザー：鴻池敏郎(塩野義製薬)、須貝威(慶應大薬・教授)、大橋武久(奈良先端大バイオサイエンス・客員教授)、跡見晴幸(京大院工・准教授)

グリーンケミストリーは自然との共存共栄で実現する経済発展と質的に豊かな生活を構築していく上で重要、不可欠の技術である。本技術は21世紀の課題の重要なポイントと認識されている。

グリーンバイオケミストリーはグリーンケミストリーの重要技術をバイオテクノロジーで構築していくことが期待されている。

本セッションではA. バイオコンバージョン、B. バイオマスの新利用などの各重要技術の現状や展開につき基調講演、招待講演、依頼講演やポスター発表で紹介、討論する。

これら技術はいずれも、カーボンニュートラル、省エネルギー、地球温暖化防止、廃棄物削減、環境汚染防止、健康、安全、QOL向上、創薬などに寄与するものであり産官学での技術構築が望まれる。

基調講演

- ・新規農薬の研究と開発(仮題)(日本農薬・取締役/常務執行役員)濱口 洋

招待講演

- ・新規ペプチド合成酵素の発見と応用(仮題)(早大理工・教授)木野邦器
 - ・ジペプチド合成酵素の発見とそれを用いたジペプチド生産(仮題)(協和発酵生産技術研究所・所長)橋本信一
 - ・抗体酵素の新展開(仮題)(阪府大院理・教授)藤井郁雄
 - ・加水分解酵素を用いる生理活性天然物の合成(東邦大薬・教授)秋田弘幸
 - ・海洋藻類の燃料生産への応用(東農工大院生命機能科学・理事/副学長/教授)松永 是
 - ・グリーンプラスチックのバイオケミカルリサイクル(慶應大理工・教授)松村秀一
 - ・バイオマスからの効率的なバイオ燃料の生産技術(仮題)(神戸大自然科学系先端融合研究環・環長)福田秀樹
 - ・植物バイオ研究は遺伝子機能実用時代へ(奈良先端大バイオサイエンス・教授)横田明穂
- 上記のほか、依頼講演8件を予定。

T9. フロンティアバイオ (ポスター発表のみ募集)

協賛：日本化学会生体機能関連化学部会
日本化学会バイオテクノロジー部会
フロンティア生命化学研究会

A. ナノバイオ・バイオ計測、B. バイオマテリアル・先端医工学、C. その他

セッションオーガナイザー：秋吉一成(東医歯大生材研・教授)、渡邊英一(東大院工・産学官連携研究員)、磯部直彦(住友化学・主席研究員)、高柳輝夫(第一三共・監査役)、深瀬浩一(阪大院理・教授)

ナノテクノロジーとバイオテクノロジーの融合領域である、ナノバイオテクノロジーの研究開発が盛んになってきた。事業化に関しても本分野はかなり有望なターゲットである。この分野における我が国の基礎研究は世界的にも高いレベルにあり、その応用や産業化を考える時期が到来したといえる。

本セッションでは、この研究分野の第一線でご活躍の方々の基調講演、招待講演及び依頼講演(企業)をもとに、ナノバイオの研究開発と産業化について、その現状と将来を議論できる場を提供する。また、一般講演(ポスター発表のみ)では、企業や大学等からの多くの発表を期待している。

基調講演

- ・超好熱菌による高速連続水素生産(立命館大生命科学・教授)今中忠行

招待講演

- ・バイオミネラル化と自己組織化による機能性ナノ構造の作製(奈良先端大物質創成)山下一郎
 - ・バイオマテリアルのナノ構造制御と実用化への展開(阪大院工・教授)明石 満
 - ・産学連携による大学のシーズの実用化(阪大院医・教授)森下竜一
- 上記のほか、招待講演1件、依頼講演4件を予定。

4 講演予稿集

4.1 発行日

平成21年3月13日

※DVD-ROM・冊子・WEBすべて

4.2 発行形式

DVD-ROM

参加登録費に含まれます(入会準備学部学生は除く)。

冊子

第I分冊・第II分冊での発行を予定。収録内容は次項目を参照して下さい。参加登録費には含まれないので別途申込が必要です。

WEB

参加予約申込をし、期間内にお支払をされた方のみ春季年会ウェブサイトにて閲覧可能です。

4.3 収録内容

第I分冊

1. 化学教育・化学史、2～4. 物理化学、5. 無機化学、6. 錯体化学・有機金属化学、11. 分析化学、13. 触媒、14. コロイド・界面化学、15. 材料化学、16. 材料の機能、17.

材料の応用、19. エネルギーとその関連化学、20. 環境・グリーンケミストリー、地球・宇宙化学、21. 理論化学・情報化学・計算法学、T1～T5. アドバンスト・テクノロジー・プログラム（材料化学）、T6～T7. アドバンスト・テクノロジー・プログラム（環境・新エネルギー）の各部門の一般講演及び関連の特別企画講演の予稿。特別講演の予稿。研究発表者索引。講演プログラム*

第Ⅱ分冊

7～8. 有機化学、9. 天然物化学、10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー、12. 高分子、18. 資源利用化学、22. 有機結晶、T8～T9. アドバンスト・テクノロジー・プログラム（バイオケミカル）の各部門の一般講演及び関連の特別企画講演の予稿。特別講演の予稿。研究発表者索引。講演プログラム*

* 講演プログラムは化学と工業 3月号掲載のもの

4.4 特許

講演予稿集をもって特許における公知日とされる方は、発行日以降権利が6ヵ月保留されることとなります。

特許を出願する際に必要な発表証明につきましては下記 URL をご参照下さい。

<http://www.csj.jp/news/happyo-syomei.html>

平成 12 年よりインターネットでの公開内容も研究内容の公知に当たることになりました。春季年会での講演申込内容の公開時期については **1.14 講演申込内容の公表** を確認して下さい。

4.5 著作権

講演予稿集に記載された内容に関する著作権は、日本化学会に帰属するものとします。したがって本会が必要と認めるときは転載し、また外部からの引用の申請があったときは本会において検討の上許可することとします。

5 参加登録

本年会の参加登録の概要は以下の予定です。詳細は化学と工業 1月号に掲載します。

なお、今年度も「入会準備学部学生」（研究発表を行わない大学の学部及び高等専門学校の学生を対象とした割引制度。予約申込は行わず当日登録のみ。参加登録費に講演予稿集 DVD-ROM は含まない）を引き続き実施いたします。

5.1 申込期間

平成 21 年 2 月 2 日～ 27 日

※参加費等の支払い締切日は平成 21 年 2 月 28 日です。

5.2 申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の参加予約申込フォームからお申し込み下さい。なおフォーム利用には大会コードの入力が必要です（大会コード：nenkai89）。

5.3 参加登録費ほか

5.3.1 参加登録費（講演予稿集 DVD-ROM を含む）

会員区分	予約	当日
正会員	12,000 円	14,500 円
正会員割引*1	9,500 円	9,500 円
学生会員	4,000 円	5,500 円

学生会員割引*2	3,500 円	3,500 円
教育会員	5,000 円	5,000 円
教育会員割引*3	5,000 円	5,000 円
ATP 講演者（一般）	12,000 円	14,500 円
ATP 講演者（非会員学生）	6,000 円	7,500 円
非会員	24,000 円	25,500 円
入会準備学部学生*4	—	2,000 円

* 1…満 60 歳以上で有給の職に就いていない方で、申請をした方。

* 2…学部入学 3 年以内の方で、申請をした方。

* 3…化学と教育を購読する学生。

* 4…研究発表を行わない非会員（未入会）の大学の学部学生及び高等専門学校の学生が対象。ただし、参加登録費に講演予稿集 DVD-ROM は含まない。

5.3.2 追加講演予稿集代

参加登録（講演予稿集 DVD-ROM を含む）とは別にお申し込み下さい。なお、第Ⅰ分冊・第Ⅱ分冊は数に限りがありますのであらかじめご了承下さい。

内容	予約	会期後
講演予稿集（第Ⅰ分冊）	5,000 円	6,000 円
講演予稿集（第Ⅱ分冊）	5,000 円	6,000 円
講演予稿集（DVD-ROM）	10,000 円	10,000 円

※価格はいずれも送料を含みます。

5.4 宿泊・交通について

本実行委員会では、宿泊・旅行等の斡旋はいたしませんので、各自の責任において手配して下さい。

春休みの旅行シーズンでもありますので、早めの準備をお勧めします。

6 懇親会

6.1 日時

平成 21 年 3 月 28 日 18 時

6.2 会場

第 89 春季年会会場内もしくは近辺の会場を予定

6.3 申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の参加予約申込フォームからお申し込み下さい。なおフォーム利用には大会コードの入力が必要です（大会コード：nenkai89）。懇親会のための申込も可能です。

7 付設展示会

付設展示会への出展受付業務は化学工業日報社に委託しました。出展をご希望されるお客様は下記までお問い合わせ下さい。

化学工業日報社 事業局

〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町 3-16-8

TEL: 03-3663-7931 FAX: 03-3663-2330

E-mail: n_doutsu@chemicaldaily.co.jp

URL: <http://www.chemicaldaily.co.jp/ent/>